
嘘ノ鏡～もう一人の犠牲者～

岡谷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嘘ノ鏡〜もう一人の犠牲者〜

【Nコード】

N6135F

【作者名】

岡谷

【あらすじ】

嘘ノ鏡の続編。もう一人の犠牲者とは？

この小説は前作「嘘ノ鏡」の続編となる小説です。まだ前作をこ
覧になっていない方は前作を読んでから読まれることをお勧めしま
す。

女は再びその手鏡を見た。鏡の中には醜い女の顔があつた。

「なんなのこれ？こんなの私の顔じゃない」

女は驚いた。

「私はこんな顔じゃない。私はもっと美しい顔をしているのよ」

女は目の前の川を見つめた。

「こんな気味が悪い鏡なんて捨ててやる」

そう言つて女は鏡を川へと捨てた。

女は一人暮らしをしているマンションへと帰つた。そして顔を洗
いに洗面台に向かつた。

「……きゃあ！なんで、なんでこの顔なの？」

鏡にはさっきの鏡に映っていた醜い顔の女が映っていた。

「そんな……」

女は慌てて自分のカバンから愛用している手鏡を取り出して見た。

「……嘘だ、こんなの嘘だ！」

やはりその鏡に映っていたのは醜い女の顔だつた。

「どうして？本当の私の顔はどこに行ってしまったの？私の顔を返して！」

女は泣き叫んだ。

「どこも変わってないわよ。変なことというわね」

女の母はそう言って笑った。

「本当に？本当に私の顔変わってない？」

「本当よ。あんたは昔からその顔よ」

女は久しぶりに実家に戻ってきていた。実家と言っても今住んでいるマンションとはさほど遠くない場所にある。

「あっそう」

女は母のその言葉を受け静かに階段を上り自分の部屋に入った。

「昔から変わってないって？そんなの嘘だ。私はこんなに醜い顔じゃない」

女は苛立っていた。

「そうか。きつと醜い顔なのは鏡の中だけなんだ。実際に私の顔が醜くなったわけじゃないんだ。それならおかあさんが言ったことがわかる」

女は机の上に置いてあった鏡を見た。やはり鏡の中の女は醜い顔をしている。

「・・・気持ち悪い顔」

女はそう小さく呟いた。再び苛立ちが戻ってきた。

「あんな鏡見るんじゃないかった。あの鏡を見てからおかしくなったんだ」

苛立ちはどんどんと大きくなっていった。

「ああ！ムカつく！」

女は気分転換するために家の近所を散歩することにした。

しばらく歩いていると河原に一人の少女が何かを探しているが見えた。

「何か落し物でもしたのかな？」

女はその少女のことが気になりしばらく様子を見ていた。

少女はずっと何かを探していたがしばらくすると持っていたバツクの中から鏡を出してその鏡をずっと見続けた。

「・・・ん？あの鏡。もしかして」

女は静かに少女に近づいた。

「やっぱりそうだ！あの時の鏡だ！なんであの子が持っているの？」

女は急に怒りが湧いてきた。

「・・・その鏡のせいで、その鏡のせいで私の顔は」

女はそう言いながら少女のもとへと走った。

「そんな鏡、壊してやる！」

そう言っただけ少女が手にしている鏡を取ろうとした。

少女は驚いてすぐに鏡をバツクの中に入れた。

「な、なにするんですか！この鏡はわたしの鏡です」

少女は細い声を大きくしてそう言った。

「うるさい！その鏡のせいで私の顔は醜くなってしまったのよ！そんな鏡なんかなくなればいいのよ！」

女は少女のバツクごと取ろうとした。少女は絶対に取られまいと必死にバツクを胸に抱えた。

「やめて！この鏡がなくなったらわたしはこの醜い顔のままになってしまう！」

そう言っただけ少女は女を突き飛ばし石に躓きながら必死に逃げた。

「痛っ。なんなのあの子？」

女はお尻についた砂を手で叩きながら起き上がった。

「何が、醜い顔のままになってしまっよ。ふざけないでよ！」

女は少女に嫉妬していた。なぜならば少女の顔がとても美しかった。

たからだ。

「あんなに可愛い顔して乱暴なんだから。そんなにあの鏡が大事だつていうの？」

そして女はとうとう気が付いたのだった。

「あの女の子は可愛い顔をしているのに自分の顔を醜いと言った。まさか、あの鏡のせい？あの鏡を見ると自分が自分の顔に対して思っている気持ちと正反対の気持ちを抱いてしまうの？そうか、だから鏡に映った自分の顔が別人の顔に見えてしまうのね。本当はその顔が本当の自分の顔なのに」

女は答えを導き出したが愕然とした。

「じゃあ、私は本当は・・・」

下を見ると何かが落ちていた。それはマーガレットの花の形をしたキーホルダーだった。

(完)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6135f/>

嘘ノ鏡～もう一人の犠牲者～

2010年10月30日05時59分発行